

□施設の特徴

来訪者が集うビジターセンターと、市民活動を支援する市民交流エリアを設けることで、展示エリアを核に双方の様々な関わり方が生まれ、静岡市の歴史文化を広く市内外へ発信する。

□ビジターセンターエリア

- 集客 700㎡
 - エントランス [250㎡]
 - ・受付エリア 80㎡
 - 繁忙時 20人程度が並んでも余裕がある広さを確保
 - ・観光案内情報コーナー 70㎡
 - ・その他 100㎡
- 体験ひろば・ガイダンス展示など [350㎡]
 - 団体バス 2台分 (2クラス)
 - 70人～80人が一度に見学しても体験ができる十分な広さを確保
- ミュージアムショップ [100㎡]
 - 40人程度の人々がゆったり買い物ができるスペース

- 商業 (別枠)
 - 展望 [200㎡]
 - 団体バス 2台分 (2クラス)
 - 70人～80人のうち40人が座ることができるスペース
 - カフェ [100㎡]
 - 席数 48席
 - サロン風ゆったり業態
 - レストラン [300㎡]
 - 席数 72席
 - 団体利用者の昼食スペース
 - パーティ対応も可能

※ビジターセンター定義
ここを目的に人が来るといふ集客性を持ち、駿府城公園周辺や中心市街地、市内各所への回遊を促す施設。

□市民交流エリア 280㎡

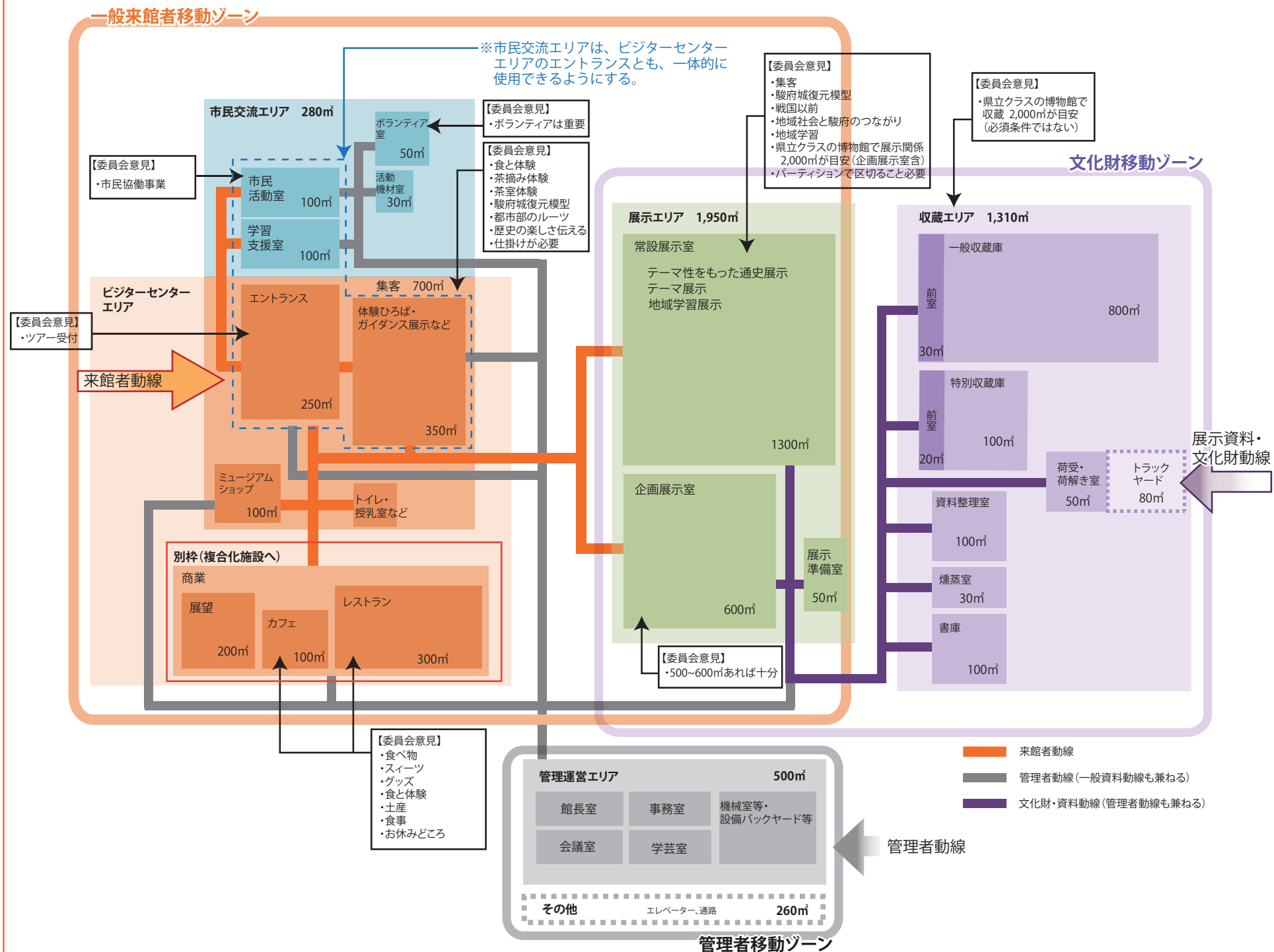
学習支援室、市民活動室は、部屋を仕切ったり、一体的にするなど、目的に応じて部屋の大きさを変えて使用する。
また、ビジターセンターエリアのエントランスや体験ひろばとも、一体的に使用できるようにする。

- 学習支援室 [100㎡]
 - ・テーブル席 約48席可能
 - 開架書架を配置し、図書資料や収蔵資料の閲覧など、市民の自己学習の支援を行う。各種打合せやワークショップの場としても使用する。
 - 地域学習展示室との連携を充実させ、小中学生の地域学習の利用を支援する。

- 市民活動室 [100㎡]
 - ・テーブル席 約48席可能
 - 市民活動団体による自主活動 (調査研究活動、勉強会など)、市民と博物館の協働活動 (打合せ、展示準備作業など) の場として、使用する。
 - 静岡市には、静岡市文化財協会、清水郷土史研究会 (会員数200名以上) などの市内の中核団体から、蒲原、由比、瀬名などの各地域の歴史を自分たちで研究・勉強している小団体が複数あり、それらの団体が博物館で活動を行う拠点とする。また、それらの団体の活動成果を地域学習展示などで、発表できるようにし、市民活動の支援を行う。また、大学生による博物館を活用した研究活動や研究成果の発信など、大学と連携した事業を実施する。

- ボランティア室 [50㎡]
 - ボランティアスタッフの休憩場所、待機場所、打合せ場所として使用する。
 - 静岡市では、文化財サポーターを募集し、現在約50名が登録、開館までに200人をめざし、古文書調査や民俗文化財の保存継承、企画展及び関連講座の支援等の活動を行っている。開館後は、継続的に博物館で行う調査、展示、活用事業の支援を担っていくことを予定している。

- 活動機材室 [30㎡]
 - 諸活動で使用する道具や、体験道具など収蔵品以外の活動に必要な道具を保管する。
- ※講座等の開催はアイセル 21 やペガサートなどの周辺施設を活用し、エリア全体を使って講座室の機能を果たす。



□展示エリア 1,950㎡

- 常設展示室 [1,300㎡]
 - ・テーマ性をもった通史展示室 [700㎡]
 - 【内訳】
 - ・家康公と駿府 400㎡
 - ・プロローグ他 300㎡
 - ・テーマ展示室 1 (今川) 150㎡
 - ・テーマ展示室 2 (東海道) 300㎡
 - ・地域学習展示室 150㎡
- 企画展示室 600㎡
 - ・主催企画展 年2回、
 - ・共催企画展 年1回 (約半年間)
 - 約半年間の利用しない期間は市民団体へ貸し出し、活用頻度を高める。また、地域学習展示室と連携できる配置とし、静岡市の地域情報を展示、発信する機会を増やす。

施設面積	面積
展示エリア	1,950㎡
ビジターセンターエリア (集客)	700㎡
市民交流エリア	280㎡
収蔵エリア	1,310㎡
管理運営エリア	500㎡
その他	260㎡
計	5,000㎡